

昭和五十一年九月二十七日 ご講演

「般若心経のこころ」

こんばんは（「こんばんは」と返事）。私もいろいろなどころでお話ししましたけれども、今日みたいな型破りな紹介をされたのは初めてです（会場笑・前川喜作塾長から「前にご講演いただいた花山信勝先生のご次男だか何だかにお生まれになった」と紹介されたのを受けて）。「次男だか何だか」というと、どこかで種がまちがつてきたんじゃないかという感じがしますが、私自身が型破りな人間でございませぬに衣を着せません。好きなことを申しませぬ。皆様もだいぶ反発があるかもしれませぬが、反発があるなら大いにしてください。中には「月の出ている夜ばかりではないよ」という人がいるかもしれませんが、帰りは充分にして気をつけながら帰るつもりですから、その点は大丈夫だと思えますけども。

今日、「般若心経のこころ」という題を出していただいたのは、実はわたくし『般若心経の心』（広済堂出版、一九七六年）

という本を出しましたので（会場笑）この題にしただけのこと、いや決して本を売ろうとかいうケチな考えはございませぬ。まあこの般若心経というお経は、日本全国でいちばんよく読まれているお経という意味では、おそらく知られているものではないだろうか。それはなぜかというと、いちばん短いんですね。どうも日本人というのは気が短い。長いお経というのは、皆さんも経験あるでしょう、葬式か何かに行くとき長いのをやられて、しびれを切らして「あの坊主早くやめないかな」、この感じをもたれているかと思いますが、般若心経は二六七文字で実に簡単でして、スピードを出すとだいたい三十秒である。こういうことになっていきますから、したがってその代わり、二六七文字の三十秒であるやつを一冊の本に書くということがどれほど大変なことかと（会場笑）いうことぐらいはおわかりかと思えますけども、私が今日お話ししたいのは、現在の日本人がなぜ

武蔵野女子大学教授 花山 勝友 先生

こうなっちゃっているんだろうかということだ。

つい二、三日前に朝日新聞で発表になっておりましたが、見た人がいるかどうか。何かというと、アメリカにギャラップ（Gallup Organization）という世論調査機関があります。七十ヶ国の人々にアンケートをとりまして、その国の宗教心というものを経計に出したわけですね。なんと驚くなかれ、「七十ヶ国の中でもっとも信仰心がないのが日本」という答えが出たと、こういう記事が載っております。これは嘘でも何でもないので、今から四、五年前ですが、総理府に青少年対策本部というのがありまして、そこで世界の青年意識調査というのをやったわけです。その中に「あなたの宗教は何ですか。あなたの信仰を教えてください」という質問があった。その質問に対して日本の青年は何と答えたか。いま世界中の若者が宗教心を失っているといわれておりますが、その失っているとい

われるイギリスでさえも六六%、三人に二人の青年が自分の宗教を答えた。アメリカは七六%ですから、四人に三人の青年が自分の宗教を答えた。もつと高いパーセンテージでは、インドだとかフィリピンになりますと、九六、七%の青年が自分の宗教をはっきり答えた。日本人は十人のうちの八人までが「この世に神や仏がいるものか。いるんなら見せてもらいたい」、そう答えたというんですね。これはウソでもなんでもない。文部省が大変びっくりいたしました。文部省というのは、国内の統計だけとつたらどんな統計出たつてびっくりしないんです。「外国と比べて」低いというパーセントが出ると、びっくりするわけですね。「日本における道德教育、宗教的情操教育が失敗したのではなからうか」というので、今あわてて様々なたちで議論しただしているというんですが、バカ言っちゃいけない。日本人ほど宗教心の高い国民は世界中にいないんです。ただ、それがひとつのものにままとってはいけません。その証拠が、車を運転するとき交通安全のお守りをぶらさげる。あれは一枚だけぶらさげているという人は極めて少ないんですね。あちらに行つて一枚、こちらに行つて一枚ともらつてくる。この前も話を聞いてびっ

くりしたんですけど、あんまりたくさんもらつてきてぶらさげて、フロントグラスがよく見えなくなつて、それでぶつかつて死んだというんですがね（会場笑）。あの世に行つて大変困つたというんですよ。「この神様の責任であろうか」「おまえのほうではないか。最後におまえのところからもらつてきたではないか」「いや、おまえのほうが高かつた、五百円じゃないか（会場笑）」。あの世でケンカになつたという話を聞いて、私はむべなるかなと思うんですが。

日本人ほど宗教心の厚い国民はいないんです。ただ、その宗教が、大きく分けると三つにしかならない。第一、儀式としての宗教。第二、祈祷。「現世利益」としての、いわゆる「お願い」のための宗教。「苦しいときの神頼み」といいますけどね。皆さんも、つい最近まで天神様にお参りに行つていたんじゃないかと思うんですけども、「学問の神様、天神様を拝みにいけば、きつと大学入学試験に通るはず」。だめですよ。明日試験があるからつて今日あわて行つたつてうまくいくとは思いませんが、あらゆる意味において「現世利益」という宗教が盛んですわね。第三、観光の対象としての宗教。残念ながらこの三つしか

ないんですよ。だから、仏教の連想ゲームをやつてみると、じつに見事です。「どういふことを連想するか言つてみる」「仏教、お釈迦さん！」これ、いいほう。「仏教、葬式！」まだいいほう。「仏教、丸儲け！」（会場笑）もう必ず出てくるんですよ。「かんかん坊主、糞坊主」「坊主憎けりや袈裟まで憎い」、ろくな言葉が出てこない。なぜそういう感じになつてしまつていいのか。すなわち、現在、日本に存在する仏教というものは、九九%までと言つてもいいでしょうな、葬式と法事するとき以外は用がないですね。役に立たない。

それじゃそのときしか行かないかと言つたら、そうじゃないですよ。あなたがたの中にはまだ結婚式を挙げた人はいないですよ。でも、将来挙げたいと思つている人はいますよね。どこでしますか。結婚式に行つた経験のある人は、どこでやつていたか思いだしてください。現在、日本では毎年百万組が結婚しております。百万組、大したもんです。まあようもようと思つていなくても、百万組ということは二百万人ですね。残念ながら日本では一夫一婦制ですから、一人しかもらえません。したがつて二百万人が結婚式を挙げている。ただし内縁を除く。これは結婚式を挙げませ

んからね。今年は百万を少々突破するようです。なぜかという、ちようどベビーブームの最後のほとぼりが来るらしいんです。そこで、百万組がいったいどこで結婚式を挙げているかという統計が出たんですが、驚くなかれ。わたくしはどういうわけか、アメリカから帰ったあと女子大ばかりで教えているもので、女の子によく訊いてみるんですよ。「現在、日本で行われている結婚式はどこがいちばん多いと思うか」。ほとんどの子供が答えるのが「キリスト教の教会」。どれくらいの割合かと訊くと、いちばん少ない人で「三十%」といっています。多いやつで「八十%」。「少々頭冷やしてこい」というんですけれどね。これはね、乙女の願望(会場笑)。わかりますね。日本の芸能人というやつがバカだから、スイスの教会にでかけていって結婚式を挙げてきたとかね(会場笑)。あるいは中にはもつとバカがいますけどね。アクロポリスの丘で(会場笑)結婚式を挙げようと思つてでかけたところが、「ここは神聖なところだから結婚式は行えません」と断られて、隣の丘で結婚してきたというのがいましたね。もつとアホなのはそれにくっついていった日本のマスコミですよ。そうじゃありませんか。そういうふうにはデに扱

われるもんだから、いかにも日本における結婚式の大部分がキリスト教の教会で行われるように思えます。しかし事實は、あなたがた男性だからまさかそれほど甘くはないでしょうが、なんと八十%までが神前結婚。神様の前で結婚式を行っているわけですよ。ところが、八十%が神前結婚を行いながら、特に男性の場合とんでもないことをやっているんです。「誓いの言葉」。「何野何男と何野何子はただいまイザナギノミコト……」、なにが「イザナギノミコト」だ、というんですよ。生まれて初めて聞く名前。おそらくその日限りで忘れちゃうんでしような。そんな神様の前で結婚式を挙げて、なにが「誓い」だというんですよ。いやいや、別に俺が神社を選んだわけじゃないけど、結婚式場を選んでそこに行ったらば、変な帽子をかぶったのがやってきて、『かしこみ、かしこみ』とやっただけだ。仕方がないから俺は誓いの言葉を述べたんだ」といわれるかもしれないが、少なくとも結婚という人生の重大なことをやるにあたって、平生信じてもない神様の前で誓いをするようなバカバカしいことはやっている。

参考のために言っておきます。残りの二十%のうち、キリスト教の教会で結婚する

のはわずか三・九%。これでもものすごく高いんです。なぜか。あなたがた、日本にいるクリスチャンの数を知っていますか。カトリック、プロテスタント、無教会。あの内村鑑三の始めた無教会主義。そしてもうひとつが、御茶ノ水の近くにニコライ堂というのがありますが、ギリシヤ正教。そこまで入れても、現在日本にいるクリスチャンはわずか九十万です。ということ、昨年十月の国勢調査によると、日本の国民の総人口は一億二〇〇万だ。一億二〇〇万の九十万といったら、一%にならないんですよ。クリスチャンの数が一%にならないなんて結婚式を挙げるやつが三・九%ということ、残りの二・九%はクリスチャンでもないのにキリスト教の教会で結婚式を挙げている。これほど大きな冒険はありませんわ。しかしあまり大きなことを言えないのね。なぜかという、十二月になると日本中は二十五日間だけのクリスマスヤンになるわけですね(会場笑)。二十五日間だけです。もうあらゆるところでクリスマス大バーゲンセールというのが始まりましてね。パチンコ屋までがジングル・ベルを流しましてね(会場笑)。これはもう大変ですよ。パーティー、クリスマスケーキ、クリスマスプレゼント。猫も杓

子も全部クリスマス。じゃあいったい、十二月の二十五日になってキリスト教の教会にでかけていくやつが何人いるかというんですよ(会場笑)。ひどいになると、「クリスマスというのは誰かが生まれたそうさ」。誰かが生まれなきゃクリスマスなんかないんですね。「イエス? 何だそれは。オー、イエス」なんて、何のことかさっぱりわからないようなことを言っておりますけれども。

このようなことをしていると、やがて十二月三十一日。どういうわけだろうね、日本人というのは付和雷同が多いんだね。今では七十%が紅白歌合戦を見ているというんだから、国民的行事となっている。紅白歌合戦を聞きながら、やがて聞こえてくる一〇八の煩惱の鐘。「おお、無情だなあ」(会場笑)。ゲタつつかけて、どこへ行くか初詣。これはあなたがた、行ったことがないとは言わせませんよ。マスコミというのは毎年ご苦労さまですね。一月の五日か六日になると必ず発表になるんですが、三が日のあいだに全国で有名寺院・神社にでかけた人の数が今年初めて六千万を越えました。六二〇〇万という発表がありました。一億二二〇〇万のうちの六千万。日本の人口の二人に一人はどこかに行

っている。覚えがあるでしょう。賽銭はいくら出してきましたか(会場笑)。驚くかな。平均六円だそうです(会場笑)。そんなことないよ、賽銭はどんなに安くても十円は出してくる、と思うでしょ。それは素人の浅ましき。彼女と行けば、一人が出すと一人は出さない。夫婦で行けば、どっちかが出せばどっちかは出さない。親子で行けば、子供に出させたら親は出さない。もつとひどいになると、拝殿がいつぱいだとうしろから投げのがある。誰かが投げたのが頭にぶつかる、それを拾って投げて帰ってくる(会場笑)。これはタダです。

もつとひどいのは「何だこれは、ぶつけやがって」とポケットに入れるやつ(会場笑)。そういうのを平均いたしますと、一人六円。何を頼んできますか。一年中のことを全部まとめて頼んでくるわけね。「商売繁盛するように」「うちの親父がもう死にそうだから、せめて俺が大学出るまでは生きていくように」「どうか今年中にはかわいい彼女がみつかりますように」「勉強しなくても試験に通りますように」(会場笑)。あらゆることを全部まとめて頼んで六円。もしこれが聞いてもらえれば、世の中はスイスイと行くんじゃないですか。私にいわせれば、たとえ一万円や十万円を払っても

本当に頼んだことを叶えてもらえるなら安いもんですわ。いっぺん医者にかかったらいくらとられますか。そのことを考えても、六円や十円ですむわけがないことぐらいわかりそうだけど、わからないところが、日本人がバカだからコウだかわからないところ。

しかも、自分が初詣にでかけていった対象がお寺かお宮かも知らない日本人が大部分。ちがいますか。「俺、行ってきちゃった」「どこへ」「川崎のお大師さん」「何だ、どっちだよ」「どっちかな。神様が仏さんかどっちかじゃないか。帰りに明治神宮まで行ってきたよ」。これね、初詣のハシゴというやつですわね(会場笑)。こういうのを何というと思いますか。「下手な鉄砲数撃ちや当たる」というんですよ。「あちらこちら頼んでおけば、どれかがきつと叶えてくれるだろう」。人間だって、「あいつにも頼んだがおまえにも頼んでおく」といわれて、一生懸命になってやってやろうと思えますか。神様だって同じですよ。「むこうに頼みにいきやがって」。帰りに時間があったから来られて、誰か「やってやろう」と思えますか。私は神様の身になりかわって考えているわけですよ。そういう「苦しいときの神頼み」をしておきなが

ら——今わたくしは「神」頼みといったが、あなたがたは神様と仏様の区別ができるかな。どれが神様でどれが仏様か区別できない。その証拠は聞いてもらえないときの捨て台詞。「この世には神も仏もあるものか」。かわいそうなのは仏さんですよ。はじめは「苦しいときの神頼み」と神ばかり頼んでおいて、あとになって「この世には神も仏もあるものか」。仏さんだって言いますよ。「私はおまえに頼まれた覚えはない」。平生参ったことのない仏壇に、あわてて線香あげて花あげて参りながら「ちよつと待てよ。これは仏壇か。仏壇というのは仏様か。仏様に頼んでもダメだ」と言つてやめる人はいないでしょう。ということとは、もうすでに日本人の頭の中では仏と神との区別がついていない。その証拠が、西行法師という人が初めて伊勢の皇大神宮にお参りになったときにつくった、かの有名な歌。

何事のおはしますをばしらねども
かたじけなきに涙こぼるる

これを英語に訳して外人に聞かせたら「バカかい」と笑いましてね。そりゃそうですよ。「誰が祀つてあるかお知らねえ

けど、ここに来たらなんとなくありがたくなつたんで拜んで帰つた」。そうでしょう。こんなバカバカしい信仰はありえない。

そういうことはまずしている。先ほど言つたように結婚式とか、何らかのかたちであらゆる宗教を使っている。子供が生まれれば初参り、どこかの神社に連れていく。七五三になれば子供にまるで猿まわしの猿のような格好をさせて、でかけていつて何するのかというんですよ。実際に親に訊いてみるんですがね。神道にでかけていくのは、お祓いをしてもらうんですよ。「お祓い」というのは何ですか。こちらが「穢れてる」から「祓ってもらおう」わけです。

「穢(きたな)い」んです。汚れているんです。真黒になつていくわけですね。しかも、男は一生のうち一度だけ祓ってもらえばいいけれど、女は穢れる。将来、毎月血を見る。いや、ケンカするわけじゃない(会場笑)。女性は将来必ず血を見る。神道において血は穢れです。「穢れを祓つておかなければ将来幸福にならない」ということから、三つと七つでかけていく。知らなからチャラチャラした格好で喜んでかけていきますね。私がその話をすると必ず親に叱られるんです。「そうだったんですか。でも、頼むからそれは男性に言わな

いで」。まあ、今日ここで男性(和敬塾生)に言つてしまったわけですが、なぜ「男性に言わないで」というかわかりますか。七五三で金がかかるのは、子供より親なんです。子供の着物は大きくかからないでしよう。着物つくるのに、一緒に連れていくおっかさんのほうがよっぽど高い。「ああいうときを利用して一枚つくるんだ。頼むから亭主には言わないでくれ」というんですけれども、実はそうなんです。七五三を何のためにやるか。穢れをとることによつて、将来、幸福に長生きしてほしい。だからあのときにもらつてくる飴の名前が「千歳飴」(ちとせあめ)。せんざいあめ。どうか千年も万年もこの子が生きてくれるように。オバケじゃあるまいし(会場笑)、千年や万年生きたらどうだろかというんですよ。現在、日本に生きているいちばん長寿の人は何歳か。わずか一一三歳とかでしよう。千年も生きるわけがない。それどころか、飴をなめさせればまちがひなく虫歯になつて早死にする。やつていることがメチャクチャですね。

そればかりではない。ついこのまえお彼岸がすみましたけど、あなたがたもやつたでしょう。特に親を失つた人、おじいちゃんおばあちゃんを失つた人、何をやるんで

すか。墓にでかけていって石に水をかけて、かわいそうにまだ寒いだろうと思うんですけども、水はまだいいです。中にいれば喘息になるのではないかと思うほどの煙責め。生きている人間は逃げる事ができますが、お墓の中におられる方は煙くて、もうあの世は喘息でいっぱいではないだろうかと思うほど。ぶわーっと煙をたいて、食べもしないまんじゅうをあげて。食べたらもつと大変ですよ。「出たー！」てなもんでね。うしろから「せつかく子孫が持ってきたんだから、ひとついただきます」。そして最後に何をやってくるか。お花をあげるのはいけこうだが、誰にあげているんですか。汚い裏側をお墓に向けて、自分のほうにきれいな花をむけて帰ってくる。矛盾を感じたことはないですか。それが不思議ですね。皆さんもだいたい地方から来ておられるんでしょうが、お盆になりますと東京の人口が三割から四割少なくなるといわれるほどじゃんじゃん帰っていきませぬ。が、帰ってやることといえ、いい人でせいぜい墓参り。あるいは盆踊りの輪に入って「いい女でもないだろうか」と引っかけることだけ考えて、親からさんさん小遣いせびりとして戻ってくる。これがお盆。

それだけじゃありませんね。お酉様、大きな熊手のオバケみたいなものを買ってきて、あれを買ってくれば商売繁盛。儲かるのは熊手を売っているおじさんだけだと思わんですがね。買って来たほうはそれだけ損をする。そうかと思えますと、今週の運勢。「あつ、待ち人来る」。おみくじ。「大吉だ」。言っておきますよ。吉が出たらガツカリしなさい。必ずどの寺院でも神社でも、吉が八十から九十%。もし凶が出たら飛びあがって赤飯炊いて喜びなさい。これは珍しいです。大事にとっておいて、それこそ机の上に飾っておけばいいんじゃないか。それだけじゃない。「今日は茶柱が立った。縁起がいいなあ」。茶柱が立つて縁起がよければ、いちばん安いお茶に番茶またはほうじ茶というのがあります。だいたい茎ばかりからできておりますから、あれを買ってきてお茶をたてると、二、三十本の茶柱がワーツ（会場笑）。それをピンセットで挟んでおいて、友達かお客さんが来るたびに一本ずつ入れてやれば、「あいつのうちへ行けば縁起のいいお茶を飲ましてくれ」。それですむんだ。たら世の中心配ないというんですよ。そうじゃありませんか。

変なことを言っているようですが、そう

考えてみると、実は日本人はひとつに絞れないだけなんです。道端に立っているお地藏さんだろうが観音様だろうが、あるいはイザナギノミコトだろうが。いま天照大神という言葉は通じなくなりましてね。まさかあなたがたの中にはいないと思えますが、三人ぐらい通じないような顔しておりますから言っておきますけども、テンテルダイジンと呼ぶやつがいるんですよ（会場笑）。「先生！うちの台所にテンテルダイジンがかかっていたんですけど、あれどなたですか」「あのなあ、てるてる坊主じゃあるまいし、あれはテンテルダイジンと呼んでもらっちゃ困るんだ」。じゃなくて、アマテラスオオミカミ。皆さん笑っているけど、中にはまじめな顔して「ミチモトさんの書いたショウボウメクラという本が読みたいんだ」と言ってくるのがある。「なに、ミチモトさん？おらよく知らないが、そういう人は」「いやそうだけど、先生は仏教の専門じゃないですか」。書いてみると言ったら、「道元」と書くんですよ。そりやドウゲンをミチモトと呼ばればわかるわけがないですよ。もっとひどいのはショウボウメクラ。いや、確かに眼の蔵と書いたらメクラと読まないことはない。いや、あなたがた笑っているけど、

シヨウボウガンゾウと読む学生が大部分よ。あれはシヨウボウ「ゲンゾウ」と呼んでもらいたいんですが、この読むのもむずかしくなったアマテラスオオミカミだろうが何だろうかかんたろうが、あらゆる神を全部拝むから、したがって「あなたの宗教は何ですか」と訊かれたら、答えは「お別れない」。全部がそう言う。そりやそうです。なぜかというと、日本にいる神様の数は全部でどれくらいか知っていますか。八百万(はつびやくまん)(会場笑)。

ハッピークマンとはいけませんよ。「やおよろず」といいますけどね。八百万の神々。あなたがたはまさかしないでしょうが、ときどき頭の弱いのがやるんですよ。「本当にいるかなあ、八百万も」。そうじゃない。八というの末広がりとって、満数なんです。すべてのものが含まれている。そうじゃありませんか。日本の神様というのは全部分業です。この神様は学問の神様、この神様は商売繁盛の神様、この神様は病気の神様。病気でいろいろある。こつちのほうの病気、こころへん、もうちよつと下々のほう(会場笑)。安産の神様。子を育ててくださる神様。子を授けてくださる神様。全部、分業なんですね。したがって日本の神様の場合には、この神様もあの神

様も全部いるわけです。すると、ある特定の日にはこの神様、ある特定の日にはあの神様と参っていきまますから、「あなたの宗教は何ですか」と訊かれるとほとんどの人が「いや俺には別に特定の宗教はない」。宗教がないどころか、外国の人によく言われるんですよ。私は満六年間アメリカの大学で教えてまいりましたけれども、ずいぶん言われました。「日本人というのは不思議な国民だ」。なぜ不思議か。「おまえの宗教は何か」と訊くと、「私の宗教はない」と返事するならまだわかる。「親父の宗教は何々だ」と答える。誰が親父の宗教を訊くかというんですよ。「あなたの宗教は何か」と訊いているのに、親父の宗教を答えたり家の宗教を答えたりするのが日本人の特徴になっているというわけです。「じゃあ、あなた自身は何を信じているのか」「おら別に何も信じてないよ。それほど歳とつてないしな。まだ元氣だよ。ああいうのは棺桶に足半分つっこんでから行けばいいんだ」と(会場笑)言っているもんだから、若いうちに交通事故で自動車にはねられて死ななければならぬ。「縁起でもないことを言うな」と思うかもしれないが、こんなことを言われたぐらいで死ぬような顔したやつはここにはいない(会場

笑)。そういうことは考えるくせに、いざ宗教というものを尋ねられると、答えが出てこない。

これはウソじゃないから言っておきます。西洋の社会にはこういう方程式がある。「人間はイコール動物である」。これはわかるわね。人間だって動物ですから。ただし「動物プラスアルファである」。何が「アルファ」だと思えますか。これはいろいろな人がいろいろなことを言っていますね。哲学者なんか、人間の特徴というものをいろいろ言っていますよ。しかし、西洋においては「人間イコール動物プラス宗教」なんです。なぜだと思えますか。宗教を認めない限り、人間は万物の霊長であることが不可能だからです。おわかりですか。人間は神によってつくられたものである。しかも、神によって万物の霊長としてつくられたという、あの有名な旧約聖書『創世記』の物語によって「宗教を信じない者にとつては人間は動物以上のものではありません」といいうかたちになってくるわけですね。ところが、「あなたの宗教は何ですか」と日本人に訊いてみると「宗教はない」。あとの引き算は簡単です。人間マイナス宗教、残るのは「動物」。この動物というのを英語でいうと「アニマル」。アニマルと横文

字にするとかっこよく聞こえるんですが、このアニマルというのは「動物」じゃないんです。意味としてはもうひとつの日本語。使ったことないかな。「畜生」。「こん畜生」「畜生め」。アニマルというのはあの「畜生」です。日本人は畜生なんです。もつとも、何年前かに『素顔の日本』(unmasked)』という本を書いた、ある国のある大使がいたんです(※元アルゼンチン大使・河崎一郎)。その中に何と書いてあったか。「日本人はホッテントットの次にみつともない」。ホッテントットというのがどんな顔をしているのか知りませんが、あなたがたも一歩外へ出てごらん下さい。少なくとも、日本人が体格的にあまりみつともいいと思えないことぐらいわかりますね。どう考えてもみつともよくない。なぜよくないのか。背は高からず高からず、鼻高からず高からず。あちこちみんな高からず。でも少なくとも両方の足を代わりばんこに動かしながら歩いているし、動物とはちがった言語でしゃべっているし、日本人は人間であると思っていたところが、「宗教がない」「じゃあ、動物である」。

しかしただの動物じゃない。なぜか。まづ、日本人が頭のいいことだけはまちがいがいいんです。胸を張っていいえることは、

ユネスコの統計によりますと、中学校すなわち義務教育までの教育は日本人は世界一です。「義務教育まで」ね(会場笑)。高等学校、ぴゅーっと下がります。大学、世界ビリ(会場笑)。意味がわかりますか。大学の数が多すぎるんです。日本には、短大まで含めると全国に約九百数十の大学がございます。これは行って見てください。ヨーロッパの社会には、極端に言えばひとつの国にひとつしか大学のない国がいくらでもございます。ということは、日本のような学歴社会ではありませんから、したがって本当に勉強したい人だけが大学へ行く。日本は本当に勉強したくない人も(会場笑)行く。数が多くなれば平均点が下がるのは当たり前でしょう。したがってずーっと下がるんですが、それにしても日本人が頭がいいことだけはまちがいのない事実ですし、特に上手なのは「人真似」。明治以後、西洋に追いつけ追い越せ、これを英語でいうとGreat Imitator(偉大なる模倣者)。ちがいますか。現在、日本が外国に輸出しているもので、日本人が発明したものがありませんか。全部、むこうから持ってきたものを少々安くしただけの話ですね。したがってGreat Imitatorといわれても仕方ない現実があるんですが、特

に西洋人がいうのは「日本人が上手なのは札束勘定である」。札束勘定、英語にするとはEconomic。札束勘定が上手な「畜生」、それを英語でいったものが「エコノミックス・アニマル」だという事実を、現在の日本人は少々忘れてはいないだろうか。

しかし先ほどから申しあげているように、実は日本人は決して宗教心がないんじゃない。ひとつに絞れないということがまづ事実。もうひとつ、本当の意味での宗教教育がまったくなされていないということなんです。皆さんもご存じのように、日本国憲法の中には「宗教の自由」というのがある。にもかかわらず日本には宗教の自由がない。なぜか。あなたがたが身近に知ることのできる宗教現象は、最初にあげた儀式かご利益か、じゃなければ観光だけでしょう。こんな宗教を見せられて興味をもつたら、そのほうがおかしいんです。特に現世利益と称するものは、「この宗教に入ればまちがいがなくこういいいことがある」「ああいういいことがある」、あらゆるいいことを並べる。いざとなると、「親父がいよいよ癌で死にそうだ」と言って藁をもつかむ気持ちで飛びこんでいく。しかし私に言わせると、いわゆる現世利益の限界はどこにあるか。すなわち、いくら商売

繁盛させてもらっても、いくら病気を治してもらっても、今までの宗教の中で「うちの宗教に入れば死ななくなる」と言ってくれる宗教がひとつでもあるか。

残念ながら、人間の死亡率は百分。わかるかな。人間の死亡率は百分です。たとえば癌や結核の死亡率だったら必ず百分以下で出てきますけれども、人間の死亡率はまちがいなく百分。百年経ったらここにいる人間はひとりもいませんよ。いたらまちがいなく文化勲章ぐらいもらえるでしょう。どんなバカでも長く生きればある程度のことではできるようになりますからね(会場笑)。だが正直に言って、残念ながらあなたがたの年齢ではあと百年はいないでしょうな。わたくしを含め。もちろん塾長さんも(会場笑)。これは百分なんですよ。必ず死ぬんです。実は仏教というのは何を説いているか。「四苦八苦」です。四苦八苦という言葉はよく使うでしょう。「きのう俺は四苦八苦した」「ほう、どんな苦?」「え、何かあるの?」。ないのに四つや八つがつくはずないでしょう。四苦八苦というのは、四種類の苦しみ、八種類の苦しみと書きます。四種類の苦しみは「生老病死」、生まれたものが歳をとって病気になって死んでいく。これはまちがいない。もっとも、あいを抜かず人もいますけどね。生まれ若いうちに死んじゃったり、生まれて歳をとって一度も病気をしないのである日ばたりと逝ったり、あるいは生まれて若いうちに病気になって逝ったり、ごていねいに全部通って生まれて歳をとって病気になって死んだりしますが、確実なことは生まれたものが必ず死ぬという事実。これだけは曲げるわけにはいかないんです。

しかし、この生老病死と呼ばれる四つの苦しみよりもっと苦しいことがいっぱいある。それがあとの四つなんです。四苦八苦といっても、全部で十二あるわけではありません。いま言った生老病死プラスあとの四つで八つになるわけです。たとえば、あなたがたは自分が死ぬのを怖いと思っているかな。私は、自分が死ぬことよりはるかに怖いことが、この世にはたくさんあると思うんです。それは自分が愛しているものを失うことです。そうじゃないかな。なぜかという、自分が死んだらあの世に行つて帰つてこれない。これはよく「講釈師 見てきたような嘘を言い」といって、いかにも自分が見てきたかのようなことを言いますが、あれはウソ。もっとひどいのは「説教師」。「悪いことをすると、死んでから地獄に落ちて舌を抜かれるぞ」

「いい子になりなさい。やがて天国に行けるぞ」とかね。これは信じられんですよ。あの世からの帰朝報告会というのは聞いたことがないですからね。「先日、わたくしが地獄の三丁目に参りましたところ」、こういう報告会でもあるなら少しは信じられるけども、行つて帰つてきたやつは一人もいないでしょう。そうじゃありませんか。あの世のことは問題じゃないんですよ。すなわち、われわれが死んでどうなるかよりもっともつとつらいのは、生きていながら自分の愛している者を一人、二人と失つていくこと。特に自分が長生きをすればするほど、まわりの知人、友人を失っていくという事実。この第五番目の苦しみこそ、愛する者と別れ離れる苦しみと書いて「愛別離苦」と呼んでおります。

たとえば、あなたがたも夢をもっているんだろうけど、夢をぶち壊したくないとは思いますよ。「愛したその日から苦しみが始まった」という言葉がある(会場笑)。今、あなたがたの中でガールフレンドがない人、気が楽なもんでしよう(会場笑)。「今日は月曜か。何をしようかな」。でも、昨日デートしてきたやつはしゅーんとしている。「あと一週間経たないと会えないな」。かわいいそうにね(会場笑)。愛する

相手のいない人というのは楽なもんですよ（会場笑）。ちがうかな。子供が生まれれば何と言うか。「このたびはおめでとーございませう。いやあ、かわいいお子さんで」。ウソ言っちゃいけない。「このたびはご愁傷様でございました（会場笑）。お子様がお生まれになったそうですが、あなたがその子を一生懸命に愛すれば愛するほど、やがてその子が一人前になった暁には、どこの馬の骨ともわからない男ないし女にとられて、親の面倒を見るやつはひとりもいませんよ。万が一、奇跡的に親の面倒を見てくれたとしても、やがてあなたのお子さんかどちらかが先に死ぬときに、どれほどつらいことかと思えます。本当にお気の毒でたまりません」。わたくしウソは言っていないよ。事実がそうなんです。その証拠に、交通事故が起こったり何かがあったりしたときに、遺体にとりすがって泣いている父親母親の姿を見たことはありませんか。この世で何がつらいかといって、自分の愛する対象を失うほどつらいことはないんですね。

じゃあ、それですむのか。今度は反対に、恨み憎むやつと会う苦しみ、これも苦しい。「うちの塾長は……」、「ごめんなさいね、塾長の話ばかりして。「塾長、あの野郎」

と思っても、そこにいる以上は会ったらば「あ、おはようございまーす」（会場笑・拍手）。何もそこだけ手を叩かなくたっていいでしょう（会場笑）。そういうことはいくらでもある。大学で授業とって、必修で仕方ないから出た。「教師が嫌な野郎だな」と思っても、単位がとれなければ卒業ができないから一年間とる。教師のほうも同じですよ。教師だって自分が好きで授業するわけじゃない。「とんでもない学生しかいないけど、食うためにはこいつらを教えなきゃしょうがない」といって一年間教えるんですからね。これほどの苦しみはないでしょう。今日の私だってそうです（会場笑）。はじめから俺の話を聞きにきたのか、事務所がやつているから仕方なく出てきたのか知りませんが（会場笑）。アハハじゃないよ、本当に。世の中というのは全部それなんだ。なぜ苦しいんですか。自分が嫌だと思っただけでしょう。

その中でもっとも典型的なのが嫁と姑の問題ですよ。わたくしは不思議でしようがない。さっき言ったように、私が話す相手は女子大の女の子が多いから言っておくんです。「おまえらね、忘れちゃいかんぞ。姑というのは、愛する亭主を産んでくれたただひとりの母親。亭主素（ていしゆもと）。

ゆもと）。味の素よりよっぽど重要だぞ」と。「お袋」というでしょう。袋がなければ子は出ない。亭主の素がなぜ憎い。そう言うとき必ず反発がくる。「先生は男だからわかんない！ 女の身になってちようだいいよ」。しかしね、ある新聞にこういう投書が載っていたんだ。「うちのお母さんはいつもぼくにむかってこう言います。『おまえは長男だから、大きくなったら一緒に住もうね』って（会場笑）。でも、うちのお父さんは長男なのに親と一緒に住んでいません。なぜならお母さんが嫌がるからです。最後にひと言。大人って勝手ですね。わたくしはこれを読んだときに、頭をぶんぶんぐられるほどショックを受けた覚えがあるんですよ。われわれは常に前のほうのほうを向いていて、うしろをひよつと見ることがあるだろうか。自分自身にかけられている愛情に気がついたことがあるだろうか。よく言います。「子を持って知る親の恩」と。残念ながらその頃には墓に布団は着せられず。もうあつちへ逝っちゃっているわけですよ。申しあげておきたいことは「いつまでもあると思うな親と金」。金のほうはよくわかるね。一万円札を崩すとすぐになくなる（会場笑）。でも親のほうは、いつまでも生きていると錯覚してい

るからろくろく親孝行しない。はっきり言
 っておきますよ。葬式のときにあわてて院
 号だ戒名だ、「高いがしようがないや、今
 まだ親不孝したんだから。せめて花輪ので
 つかいのをやつて、坊主をたくさん連れて
 きて大葬式でもしてやろう」。大葬式や法
 事をするやつに限って生きているあいだ
 に親不孝している。死んでから大きな葬式
 を出すぐらいなら、なぜ生きていたときに
 おいしいお茶の一杯も飲ませなかったか
 と言いたい。それが大きな誤解なんですよ。
 仏教というのは、宗教というのは、死んで
 からあとにまかせればいいんです。死後な
 んてあるんだかないんだかわかりやしな
 いしね。だいたい張り合いがないでしょう。
 どんなおいしいものをお墓の前に持って
 いったって、「まあおまえ、こんな高いもの
 を無理して持ってきたな」なんて言ってく
 れはしないんですよ。それよりは、なぜ生
 きている親に、おじいちゃんおばあちゃん
 に、もう少し孝行しておかなかったのか。

ほしいなと思うでしょう。あといくらほ
 い。いま満足している人はいますか。これ
 はもう、私の話を聞くことはない。あと二
 千円、あと五千円。五千円もらつて喜んで
 いるのははじめのふた月。あと一万円、あ
 と十万円。「俺も月に百万ももらえれば」
 という人がいたら、それは百万もらつてな
 いやつのひがみ。実際に百万もらつてごら
 んなさい。それですみやしませんよ。人間
 の欲にキリはないんです。その証拠に、物
 や金よりもっとはつきりしているのが歳
 だ。いくつまで生きたい。あなたがたは今
 は若いから簡単なことをいうのよ。「まあ
 五十までだな。いやがらせの年齢まで生き
 たつてしようがないよな。あのジジイみた
 いになつたつてしようがないがな」(会場
 笑)、今はそう思っている。愛する相手が
 できてごらんなさい。「おまえ百まで、わ
 しゃ九十九まで」とはいわんまでも、「せ
 めて孫の顔を見るまでは」。家に帰つてお
 じいちゃんおばあちゃんに訊いて「らん。
 「せめてこの孫が大学出るまでは」。満足
 するかな。「この子が嫁さんをもらうまで
 は」。「曾孫の顔を見るまでは」。「曾孫が小
 学校あがるまでは」。「曾孫が一人前になる
 までは」。ここまできたらば、「最長寿記
 録を立てるまでは」。どこまで行つたつて

キリがないですよ。ウソじゃないです。物
 にしたつて歳にしたつてあらゆるものが
 キリがない。すなわち、人間というものは
 求めて求めて求めて、最後まで満足できず
 に死んでいかなければならないのが第七
 番目の苦しみ、求めて得ざる苦しみ。
 時間がかかりましたが、じつは第八番目
 の苦しみこそ、まさに般若心経に出てくる
 あの有名な文句、「色即是空、空即是色」。
 あの「しき」、「色」という字に象徴され
 る人間の肉体、これがひとつ。「受想行識」、
 いま黒板がありませんから書きませんが、
 「受」「想」「行」「識」と四つに分けら
 れる心。五つ全部で「五蘊」(ごうん)と
 書く。人間というものは、体と心との五つ
 の要素からできているが、そのひとつひとつ
 つが盛んに燃えているから苦しい。「五蘊
 盛苦」という。こういうかたちで出てきた
 のが、第八番目の苦しみ。合わせて「四苦
 八苦」です。すなわち「この人生は苦に満
 たされているよ」ということ。ここで終わ
 りにしてしまうと、非常に誤解されるんで
 すね。「仏教が何だ。この世は無常だ。人
 間はいつかは死ななければならぬんだ。
 この世は苦しみに満たされている」「冗談
 じゃない、楽しいこともあるよ。あんなに
 おいしいものを食べているとき、彼女とデ

「トトしているとき」。もうわかりましたね、頭のいい皆さん。おいしいものを食べて腹いっぱいというときに、もうひとつ出されたらどうですか。「ハア、おなかいっぱいで食べれない」。これは苦しみです。彼女とデートしているときに楽しいから、別れたときに苦しくなるんです。さっき言ったように、愛する対象をもたないやつらは気が楽なもんですわ。苦しみは自分がつくっているんですな。すなわち仏教というものが答えを出そうとしたのは、「人生が苦しみだよ」ということじゃない。「人生が苦しみなら、どうやって生きていったら本当の意味のある毎日が送れるか」ということについて追求したのが、お釈迦様という人だったわけですよ。

ところが誤解されて、現在では仏教といったら葬式、法要。言っておきますよ。お釈迦様が葬式や法要をしたことがありませんか。聞いたことないでしょう。それどころか、日本における親鸞だろうが道元だろうが、弘法大師だろうが伝教大師だろうが、一度だって葬式をしたことがありませんか。法事をしたことがありますか。葬式や法事は仏教とはまったく関係ない。じゃあなぜこうなっちゃったんだろうか。それは、あなたがたは歴史をやったことがあるでし

ようからおわかりでしょうが、じつは江戸時代に檀家制度というものができたために、日本中の坊さんたちがいくら努力しても信者が増えない。決まっちゃっているわけですよ。その代わり何もしなくても減らない（会場笑）。おまけに、さっき言ったように人間の死亡率は100%でしょう。電話の前で待ってればいいの。江戸時代には電話がありませんがね、待ってれば来てくれるわけですよ。充分食べるわけですよ。二百数十年のあいだに、仏教は完全に今のようになかたに墮落した。その墮落した姿の仏教だけを見て、儀式だけの仏教を見て、儀式だけの神道を見て、そして観光の対象になった。

私はしょっちゅう訊かれて困るんです。「日本という国はさすが仏教国だ」と外人が言うんですよ。「ウィークデーだということに、土曜日曜でもないのに、ユニフォームを着た学生がぞろぞろお寺や神社にお参りする」。はじめはわからなかった。ユニフォーム、よく聞いてみたら学生服のことなんです。修学旅行ですよ。確かに修学旅行の学生は毎年何十万、何百万と、京都・奈良の神社やお寺に行っている。私は言うんです。「しばらく観察してみてください」。翌日、「驚いたなあ。一人とし

て拝んでいるやつがない」。大仏を見れば、「でかいなあ。あの鼻の穴、どれぐらいいあるだろうか」。それで帰ってきちゃうの。「きれいだなあ、平等院は」。それで帰ってきちゃう。せいぜい、おみくじを引くぐらいのもですよ。そうでしょう。これは宗教でも何でもありません。先ほど憲法があると言いましたけれども、本当の宗教はいかなるものかを教える土壌があつて初めて「信教の自由」が存在します。ただ単なる観光の対象、ただ単なる儀式の対象、ただ単なる現世利益の対象になったお寺や神社はいくつあると思いますか。全国にある神社の数がなんと八万。お寺の数が七万五千。ということは、全国津々浦々どこへ行っても寺と神社のない地方はないぐらいにたくさんありながらも、そこで見ることのできるものは本当の意味の宗教ではない。仏教ではない。にもかかわらず、その現象的な面だけを見て「俺は宗教は要らないんだ」「仏教は棺桶に足半分つつこんでから行けばいいんだ」というのは、あまりにも自分たちの無知を天下にさらけだしていることにならないだろうか。私はね、じつはアメリカに永住するつもりで、いつペン日本へ帰ってきたんです。フルブライト奨学金で行って、むこうに六

年いるあいだに、アメリカの学生がこれほど仏教というものを求めているんならば、こちらへ骨を埋めてもいいと思つた。フルブライトでは義務がございまして、日本へ帰っているあいだ遊んでいても仕方ないんで、二年間あちらこちらの大学で教えて驚いた。なんと、日本人の宗教に対する偏見。「偏見」ですよ。中には「俺は無神論だ」といばつていう者がいる。「科学は万能である」「この世は金である」「名誉だ」「地位だ」（会場笑）。たくさんいる。お尋ねいたします。「無神論」とはどういう意味だろうか。「神というものはかくかくこういう存在である」ということを研究し尽くし、その結果、「そのような神の存在を認めるわけにはいかない」という結論を出した人が無神論者。日本人は百%、「無神論者」（会場笑）。知らないんですよ。神と仏とすら区別がつかない日本人に、どうして無神論者になることができるのだろうか。特に気の毒だったのはキリスト教の神様。いいですか。キリスト教の神というのは全知全能の神。この世をすべてつくられた神なのに、明治維新後、隠れキリシタンとして地下に潜在していたものが再び入ってきたときの日本人の受け入れ方。「あんた誰?」「神さん」「神さん。うち

には八百万ほどこいるんだがなあ。しかしまあ一人か」「はい、一人」（会場笑）。満員電車の中で一人分の余裕を受け入れるような気持ちで受け入れちゃつた。だから現在日本に存在する神の総数は八百万と一人。かわいそうなのはキリスト教の神様。キリスト教の神様というのは、八百万イコール一人ぐらい大きな力の神様なのに。したがって、日本人はクリスマス、キリスト教に拒絶反応はしない代わりに、本当のキリスト教は知らない。同じように神道も仏教も知らないんです。

さあ、そんなところに本当の意味の信教の自由があるんだろうか。ここのあるところに大きな問題がある。しかし、えらそうなことをいいますが、日本に来てつくづく日本人が無知であるということに気がついて、少なくとも宗教に対する偏見だけとはつてもらわれないとどうにもならないと考へた。国際社会に立つ日本人が、これからも宗教に対して無知のままでは、何をやるにしてもうまくいかない。ご存じです。なぜ商社関係者が外国に行つて、商売人としてはつきあつてもらつても、人間として対等につきあつてもらえないのか。なぜ世界中からエコノミック・アニマ

ルとバカにされなければならぬのか。ウルだと思つたら外人とつきあつてもらいたい。最初は「あなたのお名前は」から始まつて、つきあつて二、三回目には必ず訊いてくるのが「What is your religion?」。あなたの宗教は何ですか。そのときの答えの大部分が問題。一生懸命どこかの辞書で引いてきたんだろうね。「無神論者はAtheistか」なんてね。「これはAだからam a theist、なんてえらそうな顔で言うから、むこうはびっくりたまげて「それほど宗教の研究をしているのか」と訊いてみれば何にも知らない。これは、本当にこれから外へ出ていつて働いてもらわなければならぬ現代の若者、特にあなたがた大学生にとっては重要な問題ではないだろうか。ただし、わたくし自身も、実はあなた方よりちょっと若い年代までは宗教をバカにしていた。仏教をバカにしていた。わたくし自身の父親が、このまえ来たアレです（※同年四月二十七日ご講演の花山信勝先生）、アレは少しまじめすぎてどうにもしようがないですけどもね（会場笑）。よく言われるんですよ。よくもまあ、あんなのからこんなのが出てきたとね。しかし顔が似ているから信じているんですけどね。

これだけは世の中、証拠なんかありませんからね。あなたがただってそうでしょう。ある日突然「こんにちは赤ちゃん」といわれるから、「こいつが親父かな」と思うだけのことですね。血液検査をしても、今の医学の段階だと、「これからこれは生まれない」ということはできません。「これの子供が絶対これだ」ということはわからないわけでしょう。そうするとあなたがたは信じなければ生きていけない面がいつぱいあるわけですわ（会場笑）。申しあげておきますよ。将来、自分の奥さんにあやしい面があると信じておいても信じておきません（会場笑）。信じておいても信じておきません。事実、浮気をしている人間には必ず幸せがくるのではないかと思えますがね。これは慰めておいてあげても何でもないんですが、ただ私はああいう環境で生まれて育ったために「仏教が何だ」「葬式が何だ」ところなりました。いちばん嫌いだっただのが大学の先生と坊主。その両方をいま兼ねているわけなんですけどね（会場笑）。実はね、わたし自身がいちばんなりたかったものは医者なんですよ。というのは、金持ちになるんだけれども、医学部の人がいたらごめんなさいよ、医者は人にお辞儀をさせて金になる。他の商売はそうはいかない。「先生どうも

ありがとうございます」「それではお大事にしてください」、じゃあタダでいいのかわらね。これはいいなと思いましたがね。おまけに社会的な地位もありますしね。もつといいと思ったのは、女の裸がタダで見られるんだ（会場笑）。タダで見られるだけじゃないよ。さわられるんだ（会場笑）。しかし男が来てもらっちゃ困るから、産婦人科ね。今になってみると、バカなことを考えたと思いますよ（会場笑）。いくら女ばかりといっても、ピチピチしたのだけじゃないでしょう（会場笑）。しわパイだとかくちやパイだとかね（会場笑）、いろいろなのがあるわけですよ（会場笑）。何がアハハだよ。おまけに、仮に若い女の子が来たとしても、医者に行くときというのはどこかおかしいとき。元氣なときに来るやつはいないよ。やっぱり若かったんだね。「はあ、これ世の中でいちばんいい職業だ」と思ってたね。医者になろうと思ってる旧制高等学校の理科の乙類というところから一生懸命勉強していたんだけど、ここからこの前きた親父（花山信勝先生）の話になります。ある日のこと、親父が私のところに参りまして、分厚い紙を持ってきてくれますよ。「おまえ、どうせブラブラして

るんだから、これを写しておけ」。いや私は医者になるために一生懸命勉強しているんで、ブラブラなんてしていませんけど、親父にとってはブラブラしているんですよがね。「これは何ですか」「今日死んでいった男の遺書だ」「ウソ！ うわー、気持ち悪い！」。こっちはもう、死ぬと聞いてみれば、あちこち血がベタベタついていてるわけですよ。ギョッと思いましたが、あなたも、あなたがたも、わかれわかれ、育った年代は「父の恩は山よりも高く、母の恩は海よりも深し」です。仕方がないから「はい」。職業上ピンセットを山ほど持っておられますから、一枚ずつそーっと開けながら、兄貴（浄土真宗本願寺派「宗林寺」住職・花山勝道氏）と分けまして、一枚一枚見ていったんです。

じつは、それが私にとって、仏教というものに対するひとつの転換となったんですな。なぜか。あなたがたは戦後生まれでしょうから、気がついてるかどうか知らないが、第二次世界大戦ほどおかしな戦いで終わった戦争は過去において一度もないんです。すなわち、戦争というものにしては、ケンカにしてみても、必ず勝ったほうが得をするというのが当たり前

でしょう。ところが第二次世界大戦に限っていうと、勝ったほうが大損したんですよ。気がつきませんか。得をしたのは一国だけ。ついこの前、変なやつに逃げられちゃった国ですけどね（※昭和51年9月6日「ベレンコ中尉亡命事件」。ソ連軍将校ヴィクトル・ベレンコが函館空港に強行着陸、アメリカへ亡命した）。戦争が終わる頃になってひよこつと入ってきて、四つほどの島を持つていつちやったのがいますが（会場笑）、あれを別にいたしますと、他の国はぜんぶ損をしております。まず、勝ったから占領にやっつてまいりました。何かとつていこうと思つても、とるものがない。全部自分が焼いちゃつた。残っているのは、目ばかりギョロギョロさせて、腹をすかせて、食い物を漁っている人間ばかり。これを自分の国へ持つていったつてしようがないでしょう。持つていくどころか、あなたがたのご両親に訊いて「らんないさい、当時われわれが飢えないで生きつづけることができたのは、勝った国が食糧を運んできたからです。しかし、このぐらいの損は大したことではない。どうせむこうは余つていたでしょうからね。それよりも大変だったのは、それまで自分たちが持つていた植民地に独立されてしまうんです。第二次世界

大戦のあいだ、日本とタイを除くほとんどのアジアの国々は、西洋の国々の属国だったんです。植民地だったんです。いま、見てください。インドだろうがビルマだろうが、フィリピンだろうがインドネシアだろうが、ぜんぶ独立していませんか。すなわち、勝ったがために損をしたのが第二次世界大戦の結末であつたわけです。さあ、そうなつてくると、勝った国の国民を納得させる方法はたつたひとつだ。負けた国の代表を選んで殺すことです。これは将来、歴史家が判断をつけてくれると思ひますが、いずれにしても勝った国が負けた国を裁いて正しい裁判ができるとはわたくしには思えないけれども、しかしあの当時の事情としては致し方なかつたと思ひますよ。特にA級・B級といわれる人たちは殺されても、他の国民が助かるためには仕方がなかつたと思ひます。ただ、かわいそうだったのはC級と呼ばれる戦犯の人たちなんです。あなたがたぐらいの年代で、赤紙一枚で戦争にとられ、「上官の命令は天皇の命令と同じである」「神の命令である」ということによつてやつた。そのことによつて終戦後、やつと戦争が終わつてこれからは平和な毎日が送れると思つていたある日のこと、突如としてMilitary

Police、進駐軍と呼ばれていた当時の警察に捕まつて、有無をいわさず絞首刑。黙つて死んでいかなければならなかつた二十代、三十なりたてぐらいの若者の多くが、どれほど苦しかっただろう、苦しかっただろう。ということを書かれた小説に、『私は貝になりたい』というのがございました。映画、テレビにもなりました。近頃では、あの城山三郎という人の書いた『落日燃ゆ』という小説で、C級戦犯が苦しがつて喚いて死んでいく姿が出ておりました。「なんだなんだ、自分は戦争のために天皇のために国のためにでかけていって、上官の命令でやつたことに対して殺されていかなければならない。こんなバカなことがあるか」。結婚したての人もおりました。大部分の人が歳とつた両親を残していく。中には生まれたばかりの子供を残していかなければならない若者がたくさんいました。したが、きつとこの若者たちは死ぬときに苦しんでいったにちがいない。じつは騒いで、この世を恨み、憎んでいったにちがいない。「輪廻転生というものがあるとしても、この人間の世界にだけは生まれたいくない。それでも再びこの世に生まれなければならぬとしたならば、せめて深い海の底の貝にでもなりたい」というのが、『私

は貝になりたい』という小説のテーマだったわけです。わたくし自身、C級戦犯はそうだっただろうと思っておりました。戦争中におこった行為の責任は、私にいわせれば一億国民が等しくもたなければいけないもの。どうしても責任をとらなければならぬとしたならば、A級・B級と呼ばれた、当時、指導的地位にあった人ならいいですが、C級のなかにはこんな人もいた。ひとつだけ例を出しますよ。「おまえは俘虜収容所にいたときに、腐った豆と黒い紙を俘虜に食わせたから、俘虜が栄養失調で死んだ」。調べてみれば、腐った豆というのは納豆、黒い紙は海苔なんです。そりゃねえ、それまでビフテキしか食ってこなかったアメリカの兵隊が、吹けば飛ぶような海苔や、納豆のあの匂いを嗅いで、しかも引っぱれば糸がズルズルズル出てくるとあっては、人間の食い物だとは思えなかつたかもしれせんよ。しかし、それだけのことで殺されていかなければならない人たち、何十人、何百人の若者は、きつと苦しかつただろうなと思っておりました。

わけですが、書いているうちに考えが変わってきました。結論だけ申しあげます。この遺書を隅から隅まで読んでも、どこにもこれっぽかしも、恨みごとは書いていない。書いてあることは、「自分は今まで、えらくなりたい、金持ちになりたい、名誉がほしいと、それだけを目的にして二十何年間生きていた。しかし、今こうやって理不尽にも、裁判というかたちで、戦争中ならば誰でもやったであろうことよって殺されていかねばならない。明朝六時、刑の執行をおこなう、というたつたひと言で殺されていかなければならない。明日殺されていく身で、この小さな二畳の独房のなかにいながら、しかも愛する両親と妻と子供を残していく身でありながら、私にとつて、これほど人生のなかで充実した毎日を送っている日々はない」。ウソでない証拠、ひとつだけ出します。わたくしが、それによつて自分の意思を決めた、ひとつのカギになつた歌です。

お蔭様 今日も一日生かされたぞ
噫(ああ)、もつたいない
ありがたい「南無」

「南無」という言葉は、誤解がないように

いっておきますが、命がけで頼るといふ意味のサンスクリットすなわち梵語を漢字に音写したものです。したがつて、命がけで頼る対象によつて、阿弥陀仏に頼れば「南無阿弥陀仏」、妙法蓮華経に頼れば「南無妙法蓮華経」、観世音菩薩に頼れば「南無観世音菩薩」、三つの宝に頼れば「南無三宝」とさまざまなかたちになります。これ自体は命がけで頼るといふ意味にかすぎないわけですな。

人生というものは必ず終点が決まっている。死ななければならぬこの人生のなかで、たつた一日でもいい、「お蔭様、今日も一日生かされたぞ」と思えるような毎日が送れたならば、いつ死んでも本当に生きたという感じがするんじゃないかなあ、とそのときに思ひまして、そこで志望を一八〇度転換いたしました。医者から坊主へという転換なんです。大変な転換ですけど、それでも、それ以来二十数年間、仏教というものを自分の研究の対象としてやっているわけです。

実をいうと、宗教、仏教というものの目的は、「死ななければならぬ人生のなかで、私が生きている本当の意味というものをみつめていく」という以外にないんですね。いみじくも「お蔭様」とこの戦犯の人

が歌ったように。われわれは日常生活のなかで簡単に使います。「元氣?」「はあ、おかげさんで」「誰のおかげで?」「誰のおかげかなあ。別に今日食った飯のおかげでもないし。親のおかげだ」。そうなんです。「お蔭様で」といえるその前には、自分を生かしてくれるあらゆるものが含まれているんです。あなたが生まれてきたという事実は変えるわけにはいきません。近頃、変なコマーシャルがありますね。「頭のまずさは父譲り、顔のまずさは母譲り」なんて、いかにも親の責任のように思うけれども、とんでもないまちがいです。親だつてそのときには「もうちよつとマシなのがでるんじゃないだろうか」と思つて一生懸命つくつたはずですよ。できてみればこの程度。しかし、縁あつてうちに生まれた以上は、なんとか育つまでは育てやろうと思うわけです。あなたがたはコインロッカーに置き去りにならないかっただけでも感謝しなければならぬと思ひますけれども、いずれにしてもこの「縁」という言葉は、じつは与えられた条件なんです。われわれは与えられた条件を変えるわけにはまいりません。たとえば、現代という時代に、どこの国の、誰のうちの、何番目の、男または女として生まれたという

事実だけを変えるわけにはいかならないんです。しかし、生まれたその日から死ななければならぬ日までのあいだに、自分がどのような意味をもつた人生を送ることができるかは、あなたが一人ひとりの考え方によつてできるはずなんです。その場合に、先ほど申しあげたようにただ「科学が万能である」「物質が万能である」、あるいは「金が」「名誉が」、それだけを求めていつたときに必ずぶちあたるのが、人間の欲望にはキリがないという事実。愛する者と別れ離れるという事実。憎む者と会わなければならぬという事実。さまざまな苦しみが待ち受けているこの人生の中で、たつたひとつ、意味のある人生を送ることのできる方法は、わたくし大変好きな言葉でございますが、

吾唯足知（われただたるをしる）

これを字に書くと、真ん中に「口」という字を書いて「吾」、こちらにふるとりを書いて「唯」、下に足をつけて「足」、そしてこちらに知という字の半分を書くと、「吾唯足知」が見事にひとつの文字になります。わたくしが今日、一生懸命努力をして、与えられたそのものに満足していける

一日が送れたならば、明日どのような状態が与えられても、その中で充実した一日を生きていかれる。

そうすると、中にはこういう人がいるんですよ。「そんなこと言ったら、人間に進歩がないじゃねえか」と。「人間に進歩があるのは不満があつて求めるからだ」という人がいたら、とんでもないまちがいです。本当に満足できるためには、その人が精いっぱい悔いのない努力をしたときだけだということ、おわかりになると思います。明日には死ななければならぬということ、おわかりながらも、あの独房のなかで「お蔭様、今日も一日生かされたぞ」と生きることができるような毎日を、生涯続けていくことができるならば、われわれは人間として生きていく本当の意味をみつけることができるんじゃないだろうか。

じつは親鸞という人から八代目に、蓮如という大変有名な人がおりました、その人が、『御文章』と呼ばれる、日本語でやさしく書いたものを非常に多く残しております。その中に書いてある言葉に、

我や先、人や先、今日とも知らず、明日とも知らず

残念ながら、われわれ人間は「我や先、人や先」とは決して思わない。「人や先、我はあと」、「俺だけはなかなか死なないぞ」と思っているから、いつまで経っても真剣になれない。頭ではわかつてはいるんですよ。必ず人間は死ななければならぬ存在であることは。Man is mortal（生あるものは必ず滅す）という英語もあるじゃないですか。人は死すべきものであるということは知っていないながら、俺には明日がある、明後日がある、来年がある十年後があると思っているから、夢中になって努力ができない。有名なカール・ブッセの詩に「山のあなたの空遠く幸住むと人のいふ」というのがありますが、山のあなたに幸いは住みません。なぜか。山のあなたに幸いが住むと思っている人間は、そこに行けばまた次の欲望が出てくるんです。ウンでない証拠に、十万円ほしいとか何とかいっても、十万円たまったやつは必ず二十万円がほしくなるんです。百万、二百万とほしくなるのが人間なんです。あのチルチルミチルの物語じゃありませんが、幸福の青い鳥は今日一日わたくしの足もとにあつたと気づくこと、これ以外にじつは般若心経の空（くう）の意味はないんです。

今日、「般若心経のこころ」という題を

出しながら、あえて羊頭狗肉のようなかたちで、日本人の宗教心というのから始まり、いったい宗教、仏教というものはわれわれにとつて何なのか、わたくし自身の体験をまじえながらお話しさせていただきましたが、あなたがたがこの中から、たつたこれっぽかしでもいい、「なるほどな。仏教とは、宗教とは、そういうことなのか」と気づいてもらえたならば、わたくしとしてはここに参りました意味があつたと大変喜びます。

どうもありがとうございました。（拍手）

※ご講演には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。